

「少人数学級における思考力・判断力・表現力の育成」
～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業の工夫と改善を通して～

I 研究の内容

1 研究目標

学習過程において、アウトプットを意識した授業の工夫と改善を図っていくことで、子供たちの主体性と思考力・判断力・表現力等を育むことを目指す。

2 具体的内容

(1) 低学年部会の具体的内容

○アウトプットを前提に見通しをもつ活動

- ・学習の中でどんな表現活動を行うのかを確認して学習を行う。
- ・考えるための時間を確保する。

○語彙を増やす取組

- ・帰りの会の時にスピーチ活動をおこなう。スピーチ原稿のためのメモを用意する。
- ・朝読書など読書活動を充実する。

○「書く」活動の充実

- ・神小ノートに日記や新出漢字を使った短文を書く。
- ・授業で学習感想を書く時間（5分）を確保する。

(2) 高学年部会の具体的内容

○アウトプットを前提に見通しをもつ活動

- ・見通しをもたせるため活動の前に、何のためにするのか（友だちと交流する、みんなの前で発表する、他の学年に説明する、掲示するなど）を伝える。
- ・活動時間を確保する。

○語彙を増やす取組

- ・帰りの会で日直によるスピーチ活動、集会や始業式などでの感想発表を行う。
- ・辞書引きに取り組む。
- ・読書リレー、ペア学年での読み聞かせ

○「書く」活動の充実

- ・新出漢字や意味調べをした語を使って文を作る。
- ・授業の最後に時間を確保し、学習感想を書く。

〔学習感想には、楽しかった、面白かっただけでなく、分かったこと、よく分からなかったこと、もっと知りたいことなどを書かせる。〕

- ・神小ノートに短文で1日の振り返りを書く。
- ・神小ノートにめあてと学習の振り返りを書く。
- ・板書以外に学んだことや気づきを自分でメモできるようになるために、声をかけたり、書いているものを紹介したりする。

(3) 授業づくり

- ①児童の実態把握
- ②一人一実践と研究授業の実施
- ②「ふるさと学習」の取り組み

(4) 学習基盤づくり(甲州プロジェクトと関わって)

- ①Q-U 調査の実施(2回)と分析
- ②互いに認め合い、高めあえる集団づくりを目指した学級活動の取組
- ③「朝の基礎学習」の取組
- ④家庭学習や学習規律の確立の取組

3 一人一実践

第1学年算数科「ひきざん」	大島めぐみ教諭
第2学年算数科「かけ算(1)」	小石澤淳子教諭
第4学年理科「物の体積と温度」	飯田 憲政教諭
第5学年道徳科「差別のない社会へ」	神宮司 剛教諭
第6学年算数科「およその面積と体積を求めよう」	保坂 恵 教諭
かえで学級(5学年)算数科「どんな計算になるのかな」	古屋美智子教諭

II 成果と課題

1 成果

- ・少人数学級の中で思考力・判断力・表現力等を育てるために、手立てを研究できたことがよかった。
- ・甲州市確かな学力育成プロジェクトと連携しながら、校内研を進めることができた。
- ・アウトプットも見通しをもった活動の充実を意識することができた。また、読書を中心とした語彙の充実や、書く活動の充実を図ったことで、授業だけでなく、全校集会や学校生活の様々な場面でも、児童の表現力を高めることができた。
- ・一人一実践で、お互いに授業を参観し、感想を交流したり、管理職の先生方から指導をいただいたりして学び合うことができた。また、デジタル教科書など日常的な場面での ICT 環境を利用した実践についても知ることができた。学んだことが、授業の工夫や改善に生かされた。
- ・臨時休校中の CATV の授業作りやプログラミン学習会、GIGA スクール構想へ向けた一人一台端末の活用方法など、今日的課題に必要な内容に取り組むことができた。
- ・ふるさと学習発表会は行われなかったが、地域を知る活動に継続して取り組めた。

2 課題

- ・アウトプットを中心に研究を進めることができたが、主題にある思考力・判断力の部分については課題が残る。

III 成果物

- | | | |
|------------|--------------|----------------------------|
| 1 一人一実践授業案 | 2 ふるさと学習実践資料 | 3 ICT活用記録
(研究主任 大島 めぐみ) |
|------------|--------------|----------------------------|